

◎ 第116回定例研究会

12月21日(水)

於：静岡県評会議室

貧困化する大学生の日韓比較

— 学費ローンと負債世代言説の観点から —

報告：福島みのり氏(常葉大学講師)

●格差社会と若者一声高に叫ぶ若者の現在

韓国では2010年3月のキム・イエスルによる自主退学宣言、その後授業料半額デモが大々的になされてきた。2010年、イギリスでも大学授業料値上げ反対運動の暴動が起き、2012年にはカナダでも学費値上げの抗議デモが行われ、今や大学生の生きづらさはグローバル規模で拡大している。

●日本の若者論への視点：失われた25年における閉塞感・不安・リセット

1990～：夢追い型としてのフリーター

2000～：自己責任としてのフリーター・引きこもり・ニート論

2000 半ば：若者弱者論への視点(宮本みち子、本田由紀など)、アウトサイダーとしての非正規労働者・貧困言説(雨宮処凛、松本哉など)、赤木智弘「30歳フリーター、希望は戦争」(2007)

2010～：若者知識人の台頭(古市憲寿、東浩紀、宇野常寛など)、小説『東京難民』(2011)、ルポ『最貧困女子』(2014)、古市憲寿(2011)『絶望の国の幸福な若者たち』

2015～：シールズによる社会運動(民主主義・立憲主義)

2016～：大学生の貧困(奨学金・ブラックバイト問題：大内裕和、今野晴樹など)、藤田孝典『貧困世代』(2016)

—社会的弱者としての若者を取り巻く状況が徐々に拡大し、その対象がエリート層にも移行。

●韓国の若者論への視点

1990～：「新世代」論：個性的・消費性向的若者論(「ソテジとその子供たち」「脱学校」)

1997～：IMF経済危機(高学歴失業者問題の可視化)/フリーター・ニート論などの若者論の影響)

2000～：失業率の上昇・非正規職の拡大(新自由主

義経済政策推進)

2007：「88万ウォン世代」論の拡散/インヨ(剰余)論⇒若者世代による文化的実践(歌謡・ドキュメンタリー・小説など)

2010：キム・イエスル自主退学宣言・授業料半額デモ(2010～2011)

2015：スプーン階級論/「脱朝鮮」←格差への認識/個人化

2016：パク・クネ大統領退陣デモ

—もともと膨大に存在してきた高学歴世代(大学生)の言説化とさらなる状況悪化、身体性に基づく社会運動から格差による分断と個人化言説へ。

●大学進学率の日韓比較(2015年度)

・日本の大学進学率：56.5%

・韓国の大学進学率：70.9%

●大学生の貧困

・日本：ブラックバイト、学費ローン返済、

・韓国：低賃金アルバイト、教育ローン長期滞納

●大学生の貧困化の背景

・高い授業料：日本(国公立：53万円、私立：82万円)、韓国(国公立：56万円)

・私費負担：高等教育における公的負担の割合が低い。私費負担の割合が高い。

・世帯収入の低下：日本(世帯平均年収：544万円(1998年)⇒414万円(2013年)、韓国(IMF金融危機(1997年)以降貧困化と格差の拡大)

・金融資本主義と学費ローン：貧困ビジネスとしての奨学金(有利子貸与の急増)

日本：1990年代は8割が無利子貸与⇒2016年現在、有利子が約7割/2人に1人が奨学金貸与。

韓国：2008：給付奨学金、2009：韓国奨学財団設立—所得水準に応じて給付されるI種と国から補助金を受けた大学が運営するII種がある。金利3～5%。

*連絡先：静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

〒422-8062 静岡市駿河区稲川2-2-1 セキスイハイムビルディング7F(静岡県評内)

メール roudouadv@wave.wbs.ne.jp ホームページ <http://www.geocities.jp/shizuokarouken/>